

学力向上フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	埼玉県
-------	-----

・学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	越谷市立花田小学校							
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数
学級数	4	4	4	5	4	5	26	37
児童数	148	142	153	169	143	162	917	

・研究の概要

1. 研究主題

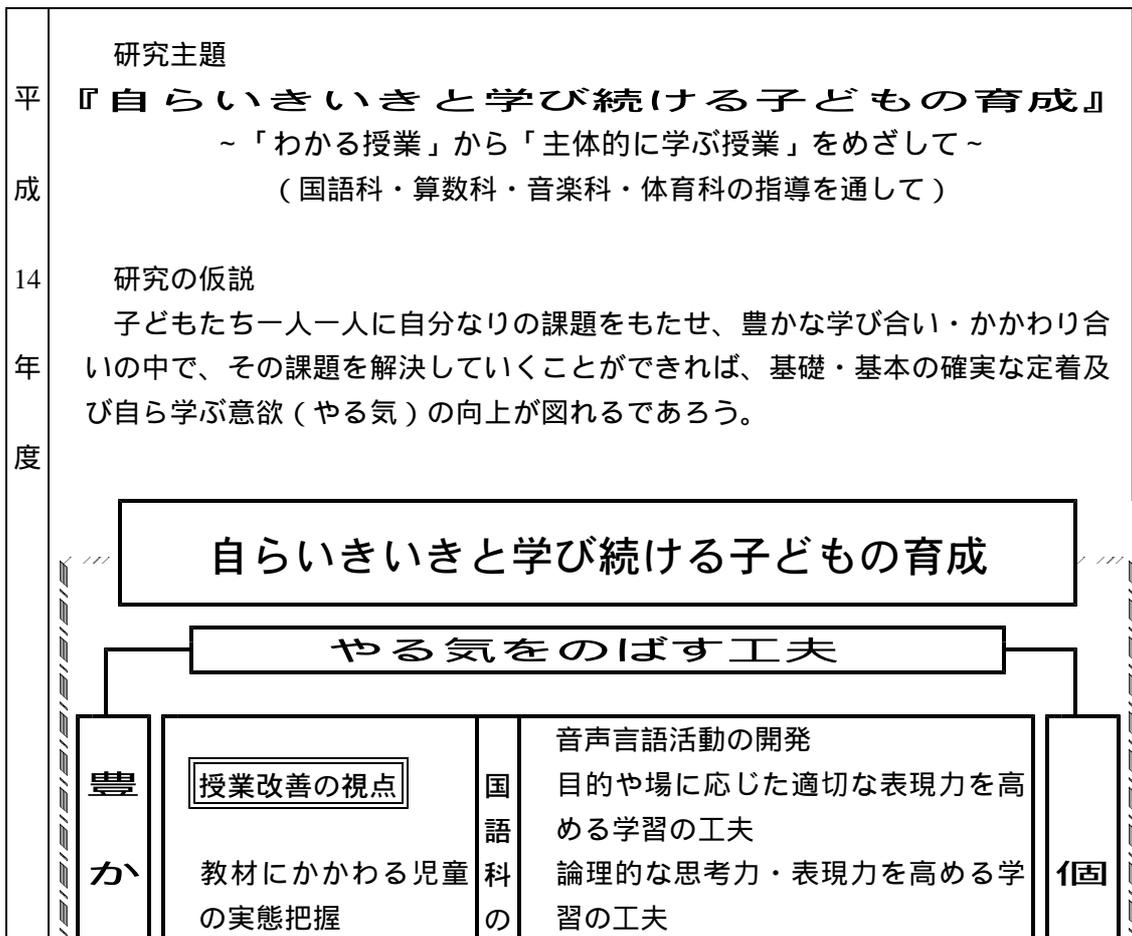
『自らいきいきと学び続ける子どもの育成』
 ～「わかる授業」から「主体的に学ぶ授業」をめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年算数（子どもの理解度に差がしやすい教科であるため）

(2) 年次計画



な 学 び 合 い ・ か か わ り 合 い	教材の系統性の把握と基礎・基本の洗い出し	視点	言語環境の整備と学校図書館の活用 一人一人のよさや可能性を生かす評価の工夫	に 応 じ た き め 細 か な 指 導
	学力の確実な定着を図る教材の見直しと教材開発	算数科の視点	指導内容の系統性を明確にし、児童の実態に即した指導方法の工夫 算数的活動の楽しさや数理的なよさに気付かせ、進んで生活に生かそうとする態度の育成 少人数指導やチームティーチングなど指導方法の工夫 一人一人のよさや進歩の状況を把握するための評価の工夫	
	個に応じ、個をのばす指導方法の工夫と指導体制づくり	音楽科の視点	音楽をつくって表現する学習の工夫 歌唱表現や器楽表現を高める学習の工夫 表現と鑑賞を結びつける学習の工夫 一人一人のよさや可能性をのばす評価の工夫	
	個で学ぶ場と豊かな学び合い・かかわり合いを深める場の設定	体育科の視点	基礎・基本の定着を図るための工夫 仲間と豊かにかかわり合うための工夫 学び方を育てるための工夫 一人一人の主体的な学習を促す評価の工夫	
	学ぶ喜びとやる気をのばす評価と指導 ・評価の工夫 ・学習カードの工夫 ・教育ボランティアの活用			

基礎・基本の確実な定着

研究内容・方法

国語科

テーマ 「伝え合う力を高める国語科授業」

仮説

自ら学ぶ力は、子どもたちが自分なりの目的をもって、話す・聞く・書く・読む活動に取り組み、子どもたち同士の豊かなかかわりの中で表現する楽しさを味わうことによって定着していく。そのため、子ども同士が互いにかかわりながら、確かな理解と伝え合うことを中心とした表現の楽しさを味わえる授業の創造をめざす。

研究内容・方法

(ア) 音声言語活動の開発

場に応じた話ができる子どもをめざし、音声言語活動の教材開発及び授業実践に取り組んできた。例えば、子どもが意欲をもてるような学習場面を設定し、実際に遭遇しそうな場を想定し演習した。

(イ) 目的や場面に応じた適切な表現力を高める学習の工夫

目的や場面を意識させることを、スピーチ・紙芝居・クイズ・テレビ番組作りなど、伝える手段を具体的に設定して学習活動を行った。

(ウ) 論理的な思考力・表現力を高める学習の工夫

論理的な文章構成の説明文教材などを讀んだり、それを生かして、論理的な文章構成で作文を書いたりすることを繰り返し行った。

(エ) 言語環境の整備と学校図書館の活用

手紙の書き方、電話のかけ方、インタビューの仕方、依頼文の書き方、敬語の使い方など、学習を通して言語環境を整え、日常生活に生かしてきた。また、学校図書館や市立図書館と連携し、学習している内容に関連する本を教室に置いて子どもの学習の意欲化を図った。

(オ) 一人一人のよさや可能性を生かす評価の工夫

書いた作文を読み合う、発表した友だちに感想を伝える、自分たちの発表をビデオで視聴するなど、子ども同士が認め合える相互評価や自己評価を取り入れる工夫をしてきた。

授業研究会

- ・平成14年 6月 3日 第2学年 単元名「たんぼぼはかせになろう」
- ・平成14年10月29日 第4学年 単元名「電話で約束しよう」
- ・平成15年 2月 4日 第6学年 単元名「感動を言葉に」

算数科

テーマ 「一人一人の力を伸ばし、学ぶ楽しさや充実感を味わうことのできる算数科授業」

仮説

自ら学ぶ力は、子どもたちが自分自身で課題をとらえ、見通しをもち、筋道を立てて考えていくことである。そして、よりよい解き方を練り上げる学習活動を繰り返すことで学力は定着していく。そこで、論理的な思考力の育成に重点を置きながら、その積み重ねを図れば、問題解決の学習の仕方が身につく、見通しをもって学習に取り組むことのできる子が育つと考える。これらの学習

を通すことで学ぶ楽しさや充実感を味わわせることができる。

研究内容・方法

(ア) 指導内容の系統性の把握と、児童の実態に即した指導

算数は基礎・基本を積み上げることで学習が成立している系統性の強い教科という特性がある。そこで、習熟度が高い子、習熟度が十分とはいえない子等、個に応じた指導に対応できるよう、指導内容についての系統表を作成し、その系統性や他の題材との関連を把握した上で児童の指導を行ってきた

(イ) 算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさ気付かせ、進んで生活に生かそうとする態度の育成

繰り返しの学習や作業的・体験的活動・問題解決的な学習や自分の興味・関心等に応じた学習等を取り入れ、楽しさと充実感のある主体的な算数授業をめざしてきた。

(ウ) 少人数等の指導など指導方法の工夫

基礎・基本の定着を図るため、習熟度別指導や興味・関心にもとづいた指導、チームティーチング等指導方法の工夫をし、児童の能力や個性に対応したきめ細かな指導を心がけてきた。

(エ) 一人一人のよさや進歩の状況を把握するための評価の工夫

評価規準にもとづき、児童のよさや進歩の状況等を積極的に評価して、きめ細かな指導に役立ててきた。そして、自己評価カードの活用によって児童が学習を振り返り、次の学習への意欲に結びつくようにした。また、教師の指導の改善にそれらを生かした。

授業研究会

- ・平成14年 6月 3日 第5学年 単元名「小数のわり算(1)」
- ・平成14年 7月15日 第5学年 単元名「1学期の復習」
- ・平成14年10月19日 第5学年 単元名「小数のわり算(2)」
- ・平成14年12月12日 第2学年 単元名「ばいとかけざん」
- ・平成15年 1月29日 第3学年 単元名「かけ算のひっ算を考えよう」

音楽科

テーマ 「一人一人のおもいを生かし、表現する喜びを心から味わうことのできる音楽科授業」

仮説

自ら学ぶ力は、子どもたちが自分自身の課題をもち、友達と力を合わせて表現する中で、歌い合い、聴き合い、表現する楽しさを味わうことで定着する。

そのため、子どもたちが自分の課題をもち、子ども同士の関わり合いの中で、表現する喜びや楽しさを味わうことのできる授業の創造をめざす。

研究内容・方法

(ア) 音楽をつくって表現する学習の工夫

自らのおもいを生かし、リズムや旋律など音楽をつくって表現する学習を積極的に実践し、音楽的表現力の向上に結び付けてきた。

(イ) 歌唱表現や器楽表現を高める学習の工夫

響きのある歌い方、楽器の基礎的な演奏の仕方等を、無理なく継続して取り組むことにより、歌唱表現や器楽表現を高めてきた。

(ウ) 表現と鑑賞を結び付ける学習の工夫

児童の実態に即した教材選択や学習活動の工夫をし、表現と鑑賞のかかわりを深め、音楽活動の広がりや深まりを味わえるようにしてきた。

(エ) 一人一人のよさや可能性を伸ばす評価の工夫

明確な評価計画をたて、指導に生かすことで、児童の基礎・基本の確実な定着を図ってきた。児童の自己・相互評価により、互いのよさを認め合ったり、チームティーチングによるきめ細かな指導をしたりして、児童の可能性を伸ばし、表現力を高めるようにしてきた。

授業研究会

- ・平成14年 6月 3日 第4学年 題材名「みんなで合わせて」
- ・平成14年10月19日 第6学年 題材名「気持ちをこめて演奏しよう」
- ・平成15年 2月 4日 第1学年 題材名「たのしくあわせて」

体育科

テーマ 「心と体を一体としてとらえ、運動の楽しさや喜びを味わわせ、体力を高め、豊かな心を育む体育科授業」

仮説

自ら学ぶ力は、子ども同士の豊かな関わりの中で、学び方を高めていくことによって定着する。そこで、体力の向上や健康な生活に関する自分たちの課題を解決することを大切にし、学習過程の工夫・子ども同士のかわり・学び方に視点をあて、運動する喜びや楽しさを味わえる授業の創造をめざす。

研究内容・方法

(ア) 基礎・基本の定着を図るための工夫

児童の発達段階に応じて、一人一人の特性を生かしたやさしい(易しい・

平成14年度	<p>優しい)運動を設定し、実施することにより、「技能・態度・学び方」の基礎・基本の定着を図ってきた。</p> <p>(イ) 仲間と豊かに関わり合うための工夫 授業の中にグループやペアによる活動を位置付け、教え合い、励まし合い、助け合い等の肯定的な雰囲気を育むことにより、心豊かな人間関係を築いてきた。</p> <p>(ウ) 自分の力に合っためあてをもたせるための工夫 取り扱う運動のもつ3つの特性(効果・構造・機能)や、めあての中身(目標・課題・活動)を明らかにすることで、児童一人一人が自分の力に合っためあてをもち、主体的に活動できるようにしてきた。</p> <p>(エ) 学び方を育てるための工夫 単元や1時間の流れを明示し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにしたり(進め方)、めあてを達成するために知的学習場面を設定したり(深め方)することで、学び方の能力を高めてきた。</p> <p>(オ) 一人一人のよさや頑張りを認める評価の工夫 教え合い、励まし合う中で相互評価を行い、友達のよさや頑張りを認め合ったり、学習カードによる自己評価で新たな課題を発見したりしてきた。また、教師による肯定的な言葉かけで、一人一人のよさを認め、可能性を伸ばすための助言をしてきた。</p> <p>授業研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年 6月 3日 第6学年 単元名「体づくり運動」 ・平成14年10月29日 第1学年 単元名「基本の運動(各種の運動遊び)」
--------	--

平成15年度	<p>研究主題</p> <p>『自らいきいきと学び続ける子どもの育成』 ～「わかる授業」から「主体的に学ぶ授業」をめざして～ (算数科の指導を中心として)</p> <p>研究の仮説</p> <p>子どもたち一人一人に自分なりの課題をもたせ、豊かな学び合い・かかわり合いの中で、その課題を解決していくことができれば、基礎・基本の確実な定着及び自ら学ぶ意欲(やる気)の向上が図れるであろう。</p>
--------	--

自らいきいきと学び続ける子どもの育成

やる気を伸ばす教育への支援

豊かな心をはぐくむ活動	授業改善の視点	指導法研究部	問題解決的な学習の指導方法・学習過程の研究開発 子どもの実態に即した適切な指導計画の作成と指導方法の研究開発 学習内容の定着を図るための学習ルーラーの研究開発	個に応じたきめ細かな指導
	問題解決的な学習を確実に進めるための学び方の指導法研究 教材の系統性の把握と基礎・基本の洗い出し 学習内容の定着を図るための学習ルーラーの研究開発	教材開発研究部	学力の確実な定着を図るための教材の見直しと開発 発展的な学習や補充的な学習など子どもの実態に即したきめ細かな指導のための教材開発 コース別学習（習熟度別学習）を進めるためのレディネステストの開発	
	学力の確実な定着を図る教材の見直しと教材開発 個に応じ、個を伸ばす指導・評価方法の工夫と指導体制づくり	評価法研究部	子どもの実態に即したきめ細かな指導における、個のよさを伸ばすための評価の研究開発 評価結果を生かし効果的な指導に結び付けるための評価方法の研究	
	学ぶ喜びと意欲を育てる指導・評価方法の研究 算数科における児童の情意面や学力にかかわる実態把握	調査資料研究部	児童・保護者の意識調査や学力テストの結果の集計・考察 計算の時間における基礎・基本を中心とした学年別の計算問題作成 花田小ホームページの研修にかかわる項目の管理・運営	

基礎・基本の確実な定着

平成14年度の反省から、全教職員が一丸となって「算数」の指導を中心として研究を推進していこうということになり、平成15年度より4教科の研究から「算数」一教科にしぼって研究を行っている。

平成15年度

自らいきいきと学び続ける子どもの育成

自ら課題を持ち、自ら考え、課題を解決していく子ども
友だちとの豊かなかわりの中で課題を解決していく子ども
いきいきと最後までやり遂げることのできる子ども

自ら課題を見つけ、見通しを持ち、筋道を立てて考えていく子ども
友だちとの学び合いやかかわり合いの中で、算数の学習の楽しさや数理的処理の良さに気づき、課題を解決していく子ども
算数で身につけた知識や考え方を、実生活の中でも生かすことができる子ども

基礎・基本の確実な定着
やる気をのばす教育への支援
豊かな心をはぐくむ活動
個に応じたきめ細かな指導

問題解決的な学習を確実に進めるための学び方の指導法研究
教材の系統性の把握と基礎・基本の洗い出し
学習内容の定着を図るための学習ルールの研究開発
学力の確実な定着を図る教材の見直しと教材開発
個に応じ、個を伸ばす指導・評価方法の工夫と指導体制づくり
学ぶ喜びと意欲を育てる指導・評価方法の研究
算数科における児童の情意面や学力にかかわる実態調査

指導法研究部 教材開発研究部 評価法研究部 調査資料研究部

平成15年度

やる気を伸ばす工夫

- (ア) 新しい単元に入る前の、既習内容の事前実態調査の方策を研究する。
- (イ) 単元途中の学習内容の理解度を確認し、以後の自己課題を把握するための方策の研究をする。
- (ウ) 単元終了後の学習内容の理解度を確認し、今後の自力学習における自己課題を明確にするための評価の研究をする

豊かな学び合い・かかわり合いの育成

- (ア) 各単元の学習内容に応じた豊かな学び合い・かかわり合いをするための、具体的な学習の進め方を研究する。
- (イ) 各単元の学習における豊かな学び合い・かかわり合いの活動から、具体的に子どもたちにどのような力を身に付けさせていくか明確にしていく。

基礎・基本の確実な定着

- (ア) 新しい単元の学習を進めるにあたって、学習の土台となる既習内容の基礎・基本を明確化する。
- (イ) 単元全体を通して身に付けなければならない基礎・基本の明確化と、その定着を図るための具体的方策を研究する。

個に応じたきめ細かな指導の充実

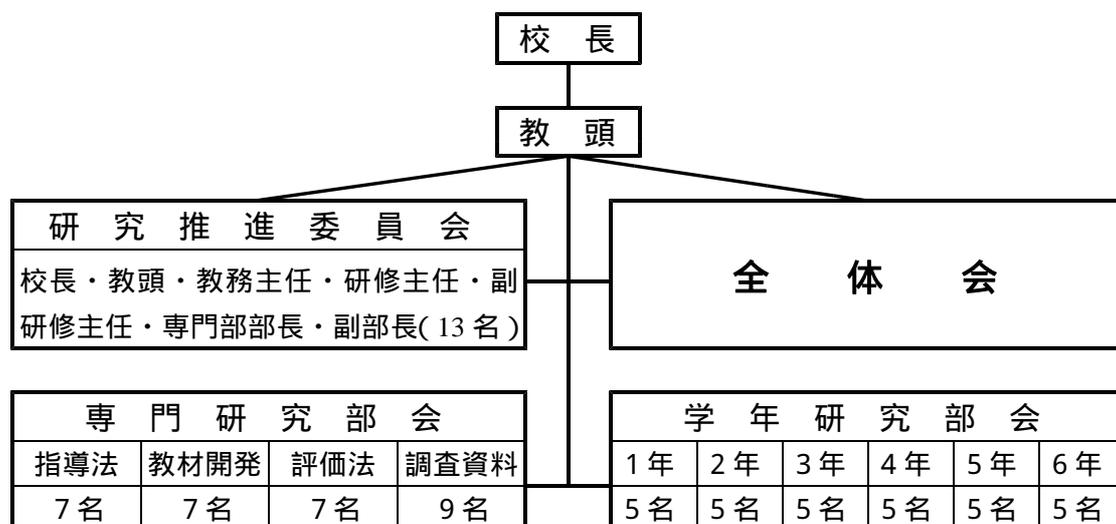
- (ア) 発展的な学習や補充的な学習等個に応じた指導のための教材の開発をする
- (イ) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善をする。
- (ウ) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善を図る。

授業研究会

- (ア) 第1回授業研究会(平成15年6月5日)
第4学年 単元名「わり算の筆算(1)」～2けたの数をかける計算～
- (イ) 第2回授業研究会(平成15年7月1日)
第2学年 単元名「長さをはかろう」
- (ウ) 第3回授業研究会(平成15年10月10日)
第6学年 単元名「分数倍を考えよう」
- (エ) 第4回授業研究会(平成15年11月5日)
第1学年 単元名「たしざん」
第5学年 単元名「分数と小数」～わり算と分数～
- (オ) 第5回授業研究会(平成16年2月16日)

平成16年度	<p>研究主題</p> <p>『自らいきいきと学び続ける子どもの育成』 ～「わかる授業」から「主体的に学ぶ授業」をめざして～ (算数科の指導を中心として)</p> <p>研究の仮説</p> <p>子どもたち一人一人に自分なりの課題をもたせ、豊かな学び合い・かかわり合いの中で、その課題を解決していくことができれば、基礎・基本の確実な定着及び自ら学ぶ意欲(やる気)の向上が図れるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>やる気を伸ばす工夫...児童実態調査・評価研究・教材開発・自己評価研究</p> <p>豊かな学び合い・かかわり合いの育成...学習指導法研究・学習内容の研究</p> <p>基礎・基本の確実な定着...基礎・基本の明確化と定着のための指導法研究</p> <p>個に応じたきめ細かな指導の充実...教材開発・指導法研究・指導体制の工夫</p> <p>観点別評価の進め方と具体的評価方法の研究...指導法研究・学習内容の研究</p> <p>研究のまとめ...花田小ホームページの充実・実践資料の保管</p>
--------	---

(3) 研究体制



平成15年度の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

年度当初、年間研修計画に具体的な研修内容を組み込んでいったことにより、効果的に研修を進めることができた。

各専門部から提案された研究内容を、学年団で協議・授業実践したことにより、学年の研修が充実した。また、学年内が同一歩調で研修を進め深めるなど協調体制が深まった。

授業研究を一人一回実践することにより、学年の研修体制が深まり、子どもたちの学習への意欲向上がみられた。

コース別指導指導・チームティーチングなど、複数の教師による指導により、一人一人にきめ細かな指導を行えるようになった。その結果、基礎・基本の定着を図ることができるようになり、学習における成就感や達成感を味わうことができる子どもが増し、学習意欲が高まってきた。

今年度より算数科の学習にかかわる専門研究部会が発足したことにより、指導法や評価法、児童の実態把握など、研修に深まりが見られるようになった。

子どもの意欲や関心を高めるような教材の選択、学習過程や指導形態の工夫等により、少しずつ主体的な学習活動の展開が見られるようになった。

2. 今後の課題

基礎学力の確実な定着のために、子どもの視点に立った授業の工夫、教材・教具

の開発を行っていきたい。

教材についての児童の実態把握の更なる推進と、その実態を生かしたきめ細かな教材作り及び、その実践の充実を図る。

学校独自の学力実態調査やレディネステストの開発と、学習のつまづきを補うための補充プリントや習熟度の高い児童のための発展的な課題の作成。

基礎・基本の定着を確かめるための小単元ごとのきめ細かな評価の工夫と確実な実施。

研修回数に限られているため、研修時間の確保が難しい現状である。限られた時間の中で研究組織をより機能させるための工夫・改善が課題である。

学力等把握のための学校としての取組

児童の学習内容の習熟度状況を把握するため、全学年・全児童を対象にして、毎年度2月に国語科・算数科の2教科の学力実態調査（教研式標準学力検査）を行っている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 研究会・説明会等の開催実績

(1) 学力向上フロンティアスクール県連絡協議会

日時 平成15年5月7日(水)
場所 さいたま共済会館
テーマ 算数科における少人数等指導の実践
対象 埼玉県内学力向上フロンティアスクール指定校
彩の国パイオニアスクール指定校

(2) 学習指導研究発表会

日時 平成15年11月5日(水)
場所 越谷市立花田小学校
テーマ 「自らいきいきと学び続ける子どもの育成」
～算数科の指導を中心として～
対象 越谷市内小中学校・越谷市近隣の市町村の小学校
沖縄県与那原町教育委員会・北海道釧路市立日進小学校

2. ホームページ作成等の工夫の実績及び今後の予定

花田小ホームページは、以下の3点をねらいとして運営されている。

開かれた学校への一環として、一般に学校の様子や方針を公開し、協力体制を強化する。

校内研修（学力向上フロンティアスクール）の情報を発信することにより、他校との情報交換を図る。

教育、学習に役立つ情報を提供し、共有の場となることを目指す。

特に に関しては、次の内容を掲載している。

研究の概要（教員向けに、校内研修の主題や仮説などを紹介）

授業風景・成果と課題（授業風景の写真と、ご指導いただいた内容を掲載）

指導案（印刷してすぐ使えるPDFファイルの指導案などを掲載）

算数科コース別学習の情報（保護者向けに、コース別学習の情報を公開）

学力向上フロンティアスクール（文部科学省の学力向上フロンティアスクールのホームページにリンクをつなぎ、情報収集に役立てる。）

市内の小中学校（市内小中学校と相互リンクを進め、情報交流を推進する。）

【 ホームページURL <http://school.city.koshigaya.saitama.jp/hanata-e/> 】

3. フロンティアティーチャーとしての研究成果の普及

松伏町立松伏第二小学校 校内研修会

日時 平成15年7月25日（金）

場所 松伏町立松伏第二小学校

内容 「少人数指導」の在り方について
・学習の進め方や方法について

対象 松伏町立松伏第二小学校職員 28名

越谷市指導法改善研究員による算数・数学部会での提案

越谷市内の学校に、フロンティアスクールとして成果を広めている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級

13～18学級 19～24学級

25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導

一部教科担任制 その他(習熟度別指導)

【研究教科】 国語 社会 算数 理科

生活 音楽 図画工作 家庭

体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無